

三浦小学校

「自主・自律から

協働・共生へ」

校長 明神 通恭



夏が終わり、新学期が始まりました。今年の夏は天候が不安定でしたが、それゆえに空の美しさが際立った夏でした。隆々と立ち上る入道雲、虹の橋、雲間から射す金色の陽光の荘厳さに子どもたちと空を眺めた保護者の方もたくさんいらしたのではないのでしょうか。

最近、朝夕やと涼しくなつて、虫たちを追う子どもたちの歓声に新しい季節の訪れを感じています。さっそくですが、三浦小学校の今年度の教育について、一部ですが紹介させていただきます。

◆自主・自律から協働・共生へ

子どもを育てるには、まず学校・地域・保護者が連携することが必須です。

そこで、4月当初、保護者の皆さんや三浦の子どもを育てる会の皆さんに「三浦小学校で育てたい子ども像」を説明しました。

①自主・自律とは「自分のことは、自分でできる」ということ。

②協働・共生とは「誰もが自分のよさを生かして活躍しあえる」ということ。

《学校は間違ふところ。間違ふからこそ、新たな学びが生まれるところ》と言われ続けてきましたが、先が見えない今の時代ほど、この言葉が深い意味を持つことはなかったと思います。

子どもたちの生きる未来は予想もつきません。そんな未来を生きる子どもたちだからこそ、誰かが掃き清めた道を転ばず、迷わず進むより、舗装もされていない凹凸の道を切り開き、転んだり迷ったりしながら歩んでほしい。子どもたちには学校でみんなと一緒に頭

を突き合わせて考えをぶつけあったり、誰の力も借りずに1人でじっくり考えてみたり、そんな時間を思う存分過ごしてほしいと思っています。

そのための大人の役割は《子どもたちに工夫や苦勞をさせること、子どもたちの学び育つ姿を見守って、くじけそうなきには少し励ましたり、勇気や自信を無くしているときには立ち上がるように傍に寄り添ったりすること、簡単に答えに導いて子どもたちの考える楽しさを奪ってしまわないようにすること》です。一生懸命頑張る自分たちを、見守る大人がいることで、子どもたちは安心して力を発揮します。ちょうどいい距離感で見守っていききたいと思います。

◆「牛の尻尾にならない」から「一歩前に」へ

1学期は「自分の進む道を他人任せにしない。自分で決めてそれに向けて努力してほしい」という思いを込めて「牛の尻尾にならない」と言い続けてきました。2学期は「自分で限界を決め

ない。勇気を出して一歩踏み出してほしい」という思いを込めて「一歩前に」をめざします。

子どもたちは好奇心旺盛で、あれもやってみたい、これもやってみたいという気持ちを持っています。特に低学年の子どもたちは気持ちを隠さずに表現することができず。しかし、中・高学年になると周囲に遠慮したり、自分で「無理」と限界を決めたりして、一歩前に踏み出すことができない子どもも見られます。失敗を恐れて自分をあきらめるのは、とてももったいないことです。私たち教師は挑む気持ちを尊重して、結果を受け止めさせること、そこからの学びを肯定的にフィードバックしていきます。

◆地域連携と地域のプラットフォームとして

コロナ禍によってさまざまな活動が中止になり、3年ほどの歳月が過ぎました。時間の経過とともに失われた人と人の絆、忘れ去られたような行事…このままではいけないという思いが形になったのが、7月23日(日)

に行われた「三浦の夏祭り」です。生華園や地域の方々を中心に多くの方が関わって祭りを復活させることができました。地域の先輩方が盆踊りの練習で踊りを教えてくださったり、生華園の方たちと一緒に練習に取り組んで書道パフォーマンスを実施したりできました。

三浦小学校の校区、田野浦・出口は地域の教育資源が豊富です。生華園やグループホーム、あったかふれあいセンター、南部保育所などの各施設や花卉団地、漁港などが近くにあり、保護者や地域の方が働く姿を子どもたちが目にする機会が多いです。だからこそ、障がいのある方や高齢の方、年下の幼児などとの関わりがとても自然で、人権を大切にすることが当たり前の風土が育まれています。

次は地域の力をお借りして、11月19日(日)の三世代交流会の準備中です。これからも、地域の宝である子どもたちを中心に、プラットフォームとしての役割を果たすことのできる三浦小学校でありたいと考えています。